

縄文・弥生のさいたま編年表 （鈴木正博編）

縄文時代の 大別	中区分	細別編年 (各細別には(古)(中)(新)等のディープ・クロノロジー内包) 【ゴシック体は埼玉県、かつ斜体はさいたま市のタイプサイト】	「見沼文化」と馬場小室山遺跡の主なできごと
約 12,000YBP 【草創期】	【草創期前葉】 【草創期中葉】 【草創期後葉】 【草創期末葉】	(後野遺跡 ※1)→花見山式など隆線文系土器群 下宿式など爪形文系土器群→宮林式など押圧縄紋系土器群 大谷寺式など表裏縄紋系土器群／寿能式 井草式→大丸式→夏島式→稻荷台式→花輪台I式／稻荷原式	【海面は-100m 以下】えんぎ山遺跡で年代複合小片土器(定住) (大丸山遺跡) 1万年前の寿能式は温暖化で九州系統が北上した姿！ 【海面は-40m】「見沼文化」形成期(100 ヶ以上の遺跡群)
約 9,000YBP 【早期】	【早期前葉】 【早期中葉】 【早期後葉】 【早期末葉】	平坂式→三戸式→田戸下層式 田戸上層式→子母口式 野島式→鶴ヶ島台式→茅山下層式→茅山上層式 (八雲貝塚 ※2)→打越式→(北宿貝塚 ※3)	北宿西遺跡で中部高地系押型文文化が定着 (北方系貝殻文から東海系条痕文への土器系統移行) 【縄文海進最奥部】古入間湾にヤマトシジミ貝塚形成・貝殻条痕文 【小海退】見沼・湾に泥干潟産(ハイガイ・カキ主体)貝塚形成
約 6,000YBP 【前期】	【前期前葉】 【前期中葉】 【前期後葉】 【前期末葉】	花積下層式→関山式 黒浜式／植房式→諸磯 a 式／(所作式) 諸磯 b 式／浮島式→諸磯 c 式／興津式 十三菩提式／(栗島台式)	砂泥底定着過程・海進と誤解！ 宮ヶ谷塔貝塚(ハイガイ・カキ主体)等 【定着海面は+3～5m】ヤマトシジミ主体の砂泥底産(ハマグリ等)貝塚 【小海退】貝塚凋落・中葉より漆塗浅鉢等の出現(大戸本村遺跡等) 集落形成希薄！
約 5,000YBP 【中期】	【中期前葉】 【中期中葉】 【中期後葉】 【中期末葉】	五領ヶ台式→五領ヶ台上層式 勝坂式／阿玉台式→加曾利E1式 加曾利E2式→加曾利E3式→(加曾利E3-4 式) 加曾利E4式	集落形成希薄状態の継続(炉址無し小型竪穴住居址) 【小海進】馬場小室山遺跡の中期集落・櫛谷遺跡に小貝塚・漆塗土器 馬場小室山遺跡の中期集落解体 ↑ 入間川は側ヶ谷戸貝塚 【小海退】馬場小室山遺跡から水深遺跡等他の土地へ移動顕著
約 4,000YBP 【後期】	【後期前葉】 【後期中葉】 【後期後葉】 【後期末葉】	称名寺式→堀之内1式→堀之内2式 加曾利B1式→(加曾利B1-2 式)→加曾利B2式→加曾利B3式 高井東式(曾谷式→安行 1 式) →(安行 1-2 式) 安行 2 式	【小海進】南方遺跡に小貝塚・馬場小室山遺跡の後期集落再開 寿能低湿地で木器・漆器等／馬場小室山の村空間がやや縮小化 【海退顕著】中部高地系の高井東式、安行1式以降「縄文塚」形成期 寿能低湿地で木器・漆器等／大宮台地北部には別集団
約 3,000YBP 【晩期】 約 2,400YBP	【晩期前葉】 【晩期中葉】 【晩期後葉】 【晩期末葉】	安行3a式→安行3b式 安行3c式→安行3d式→(南奥大洞C2 式 IV/V 期の貫入) 前窪式→千網式 荒海式	製塩土器の受容・亀ヶ岡文化の南下・「縄文沼」藍胎漆器等盛行 【海退ピーク】人面文土器と「縄文塚」のピーク、そして安行文化の終焉 「見沼文化」への小規模窪地集落の南下と地域文化の終焉 ★関東地方における縄文文化の解体期で「見沼文化」の凋落期！

弥生時代の 大別 (関東地方)	中区分	武蔵方面の細別編年 (1・2・3式等にはディープ・クロノロジー内包)	「見沼文化」等の主なできごと
BC4世紀頃 【前期】	【前期後葉】 【前期末葉】	如来堂式／(東関東:荒海3式) 四十坂式／(東関東:荒海4式→殿内1式)	★埼玉平野における遺跡形成が希薄な時代！ 関東地方における再葬土器棺墓の出現
BC3世紀頃 【中期】	【中期前葉】 【中期中葉】 【中期後葉】 【中期末葉】	岩櫃山式 上敷免式→出流原式→池上式→小敷田式→上敷免(新)式 (宮ノ台1式→2式)／続上敷免(新)式→北島式→前中西式 (宮ノ台3式)／用土・平式→(前中西遺跡 ※4)	前葉～中葉前半は再葬壺棺墓の定着 荒川新扇状地周辺に池上式から農業集落の展開 ★「見沼文化」に環濠集落と地域文化の形成 冷涼化？遺跡形成が希薄化
紀元0年頃 【後期】 3 世紀の中頃？	【後期前葉】 【後期中葉】 【後期後葉】 【後期末葉】	(久ヶ原1式)／下戸塚1式(菊川系受容・変容)／岩鼻式 (久ヶ原2式)／下戸塚2式／吉ヶ谷 1 式 (久ヶ原3式)／(井沼方9号)→(北通 57 住)／吉ヶ谷2式 (前野町式)(前野兎谷第3地点)／吉ヶ谷3式(中耕 32 号周溝墓)	武蔵野台地は東海の菊川式系土器群の受容と変容 下戸塚2式前後に【見沼シャモット弥生】の出現 ★入間川の自然堤防と「見沼文化」に環濠集落展開 ★芝川を自然堤防が封鎖し、河川交流ルート断絶

§ 草創期と早期の区分:草創期の命名者・山内清男の定義を採用！

§ YBP:C14 年代測定値 (0YBP＝西暦 1950 年 → 約 10,000YBP＝約紀元前 8,000 年)

§ ディープ・クロノロジー:細別内で世代レベルの年代変遷を導出する型式学

※1～4：細別編年表に位置付けるには、まだ資料等検討の余地があり、今回、仮に命名し表記するに留めた標式遺跡